

予算決算委員長報告

令和4年3月3日

去る3月1日に開議されました本会議において、予算決算委員会に付託された議案について、3月2日に「前期全体会」を開催し審査を行いました。そのうち「議第32号 令和3年度安来市一般会計補正予算（第12号）」及び「議第40号 令和3年度安来市病院事業会計補正予算（第1号）」の2件について、その審査経過の主な部分と結果を報告いたします。

はじめに、「議第32号」の審査内容の主なものとして、「2款 総務費」の「転出転入手続ワンストップ化推進事業」について、委員より「マイナンバーカードの取得人数と、マイナポータルを開設している方が市内にどれだけおられるのか、また、このサービスはマイナポータルを利用しないとできないので、この仕組みをPRしていく必要があると思うが、どのように考えているか」との質問に対し、執行部からは「令和4年1月末時点で、マイナンバーカード申請者数は17,992名、交付者数は16,193名である。マイナポータルの市内の登録状況は把握できていないが、各種オンライン申請については、来年度には自治体DXを推進する専属部署が新設されるので、今回のワンストップサービスを含め、積極的にPRを行っていききたい」との答弁がありました。

続いて、「12款 公債費」の「市債繰上償還」について、委員より「剰余金を繰上償還されるのは良いことだが、近年、災害が多発している状況の中で、財政調整基金が少なくなることは好ましくないと考えている。県内の他の自治体のほとんどが標準財政規模の20%の基金積立をしておられるのが現状だと思う。反対ではないが、行革を進めないと基金を貯められないと思うので、しっかり取り組んでいただくようお願いしたい」との意見に対し、執行部から「現時点での財政運営においては、財政調整基金の残高の確保が課題と考えている。同時に、単年度ごとの予算の構成割合で、義務的経費が50%を占めており、そのうち、公債費が3分の1程度であることから、財政構造改革も進めなければならない。今回は財政健全化の財源の確保ができたことから、当面の目安としていた標準財政規模140億円の5%程度の7億円程度は財政調整基金の残高を確保できたことから、今回は、あわせて、後年度の公債費負担を軽減するために、繰上償還を計上した。ただし、現状の財政構造では、例えば基金に積んだとしても、すぐにまた財源不足で基金を取り崩すことになるので、繰上償還と基金積立のバランスを見ながら、高い目標を持って安定した運営ができるように取り組む」との答弁がありました。

次に、「議第40号」に関しては、委員からの質疑等はございませんでした。

採決においては、「議第32号」、「議第40号」とも全会一致で執行部提出原案の通り可決すべきものと決しました。

以上、予算決算委員長報告といたします。